

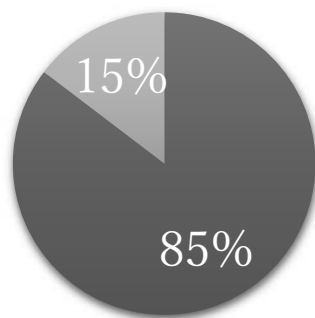
つくば市再犯防止推進計画策定に向けたアンケート（回答数 40 名）

保護司属性 令和8年（2026年）4月1日現在

性別	男	女
	35	6

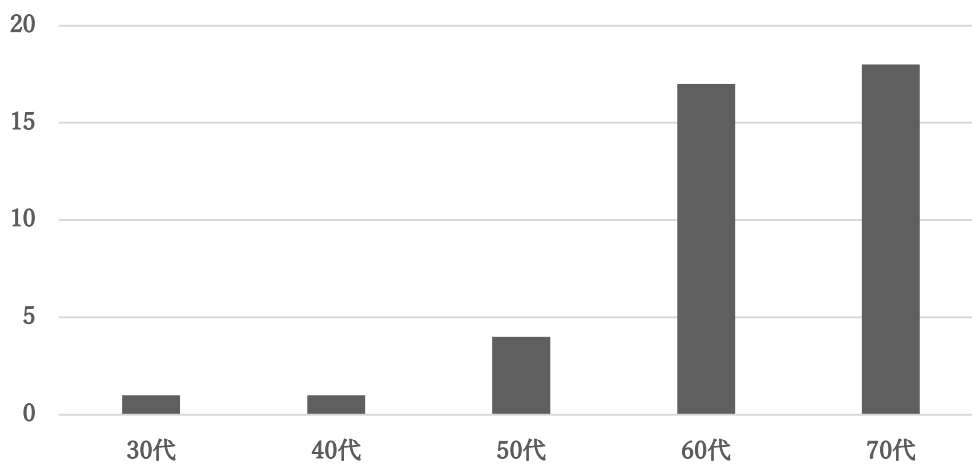
年齢	30代	40代	50代	60代	70代
	1	1	4	17	18

性別



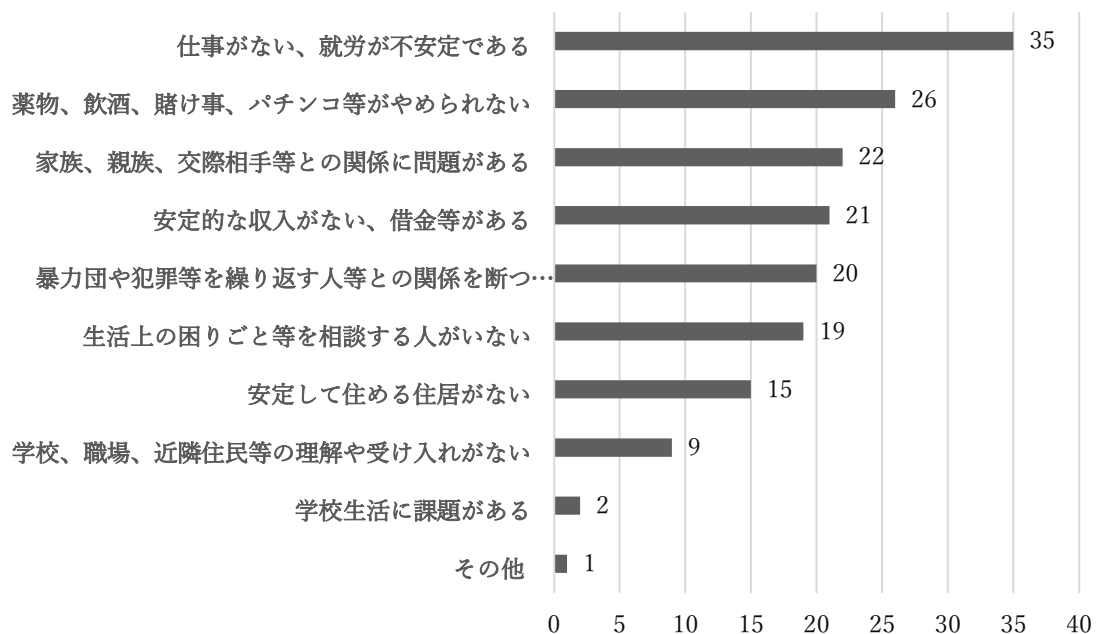
■ 男 ■ 女

年代



Q1 再犯に至ってしまう主な理由は何だと思いますか。（複数回答可）

回答	件数
仕事がない、就労が不安定である。	35
薬物、飲酒、賭け事、パチンコ等がやめられない。	26
家族、親族、交際相手等との関係に問題がある。	22
安定的な収入がない、借金等がある。	21
暴力団や犯罪等を繰り返す人等との関係を断つことができない。	20
生活上の困りごと等を相談する人がいない。	19
安定して住める住居がない。	15
学校、職場、近隣住民等の理解や受け入れがない。	9
学校生活に課題がある。	2
その他	1



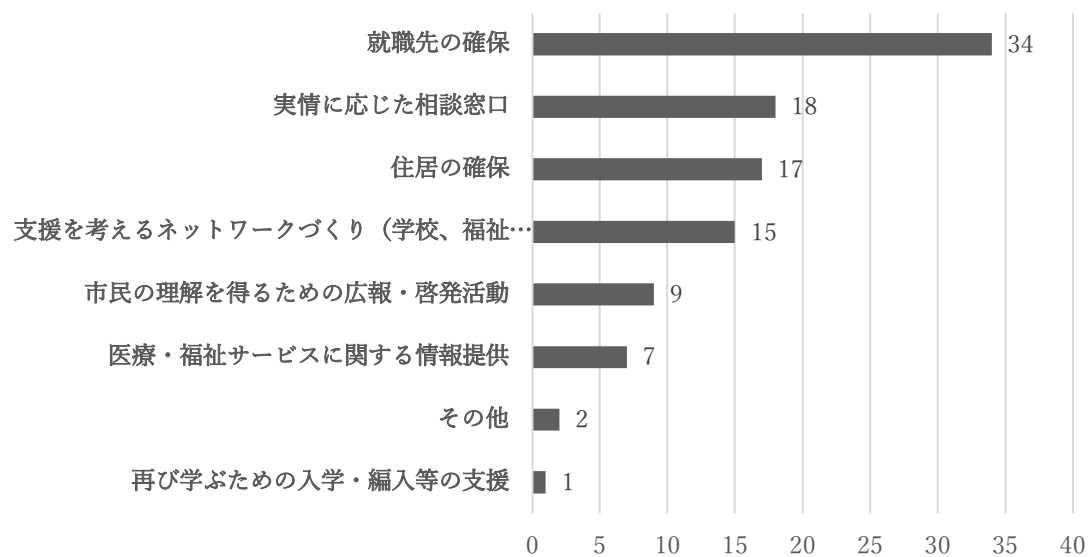
※その他の回答（原文ママ抜粋）

- ・対象者の生育歴や人間性、人生感など本人の現在の感性のあり方

Q2 再犯に至らないためにどのような支援が必要だと思いますか。

(3つまで選択可)

回答	件数
就職先の確保	34
実情に応じた相談窓口	18
住居の確保	17
支援を考えるネットワークづくり（学校、福祉施設、民間団体等）	15
市民の理解を得るための広報・啓発活動	9
医療・福祉サービスに関する情報提供	7
その他	2
再び学ぶための入学・編入等の支援	1



その他の回答（原文ママ抜粋）

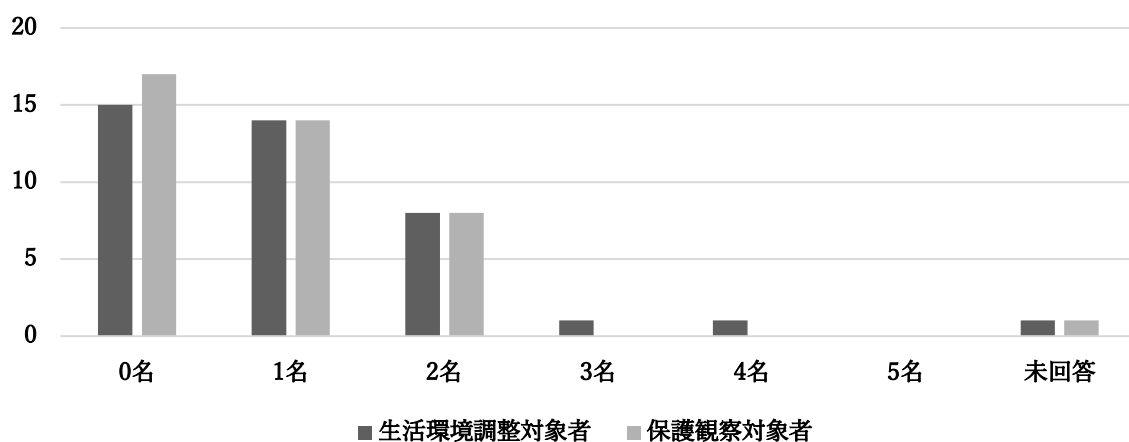
- ・対象者を信じて、支援してくれる大人の存在
- ・相談できる・信頼できる人

Q3-1 現在、担当の「生活環境調整対象者」は何名いますか。

0名	1名	2名	3名	4名	5名	未回答
15	14	8	1	1	0	1

Q3-2 現在、担当の「保護観察対象者」は何名いますか。

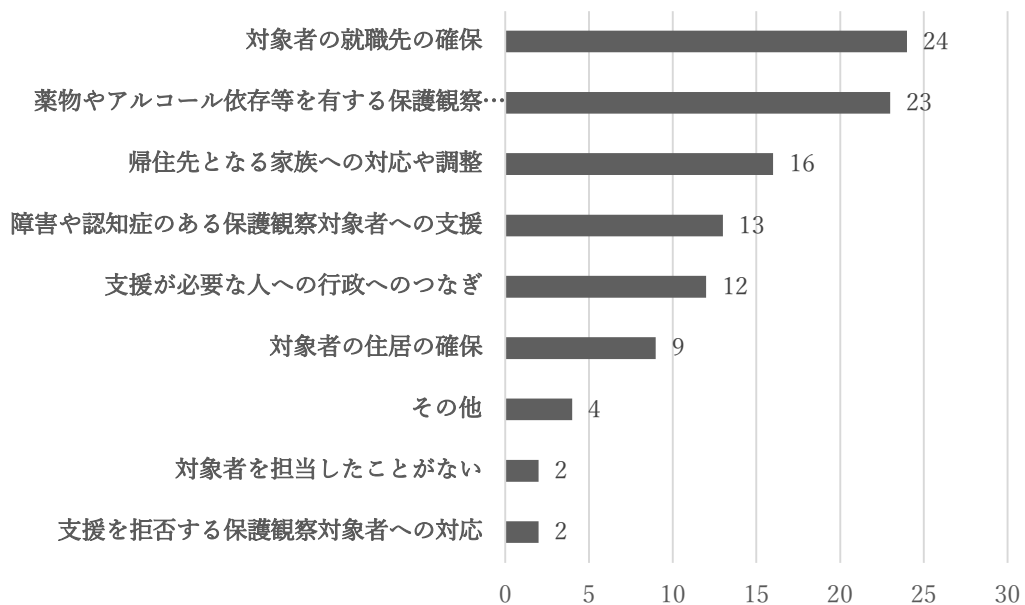
0名	1名	2名	3名	4名	5名	未回答
17	14	8	0	0	0	1



Q4 保護司活動の中で、困難を感じることは何ですか。(複数回答可)

回答	件数
対象者の就職先の確保	24
薬物やアルコール依存等を有する保護観察対象者の支援	23
帰住先となる家族への対応や調整	16
障害や認知症のある保護観察対象者への支援	13
支援が必要な人への行政へのつなぎ	12
対象者の住居の確保	9
その他	4
対象者を担当したことがない	2
支援を拒否する保護観察対象者への対応	2

Q 4 保護司活動の中で、困難を感じることは何ですか。（複数回答可）



その他の回答（原文ママ抜粋）

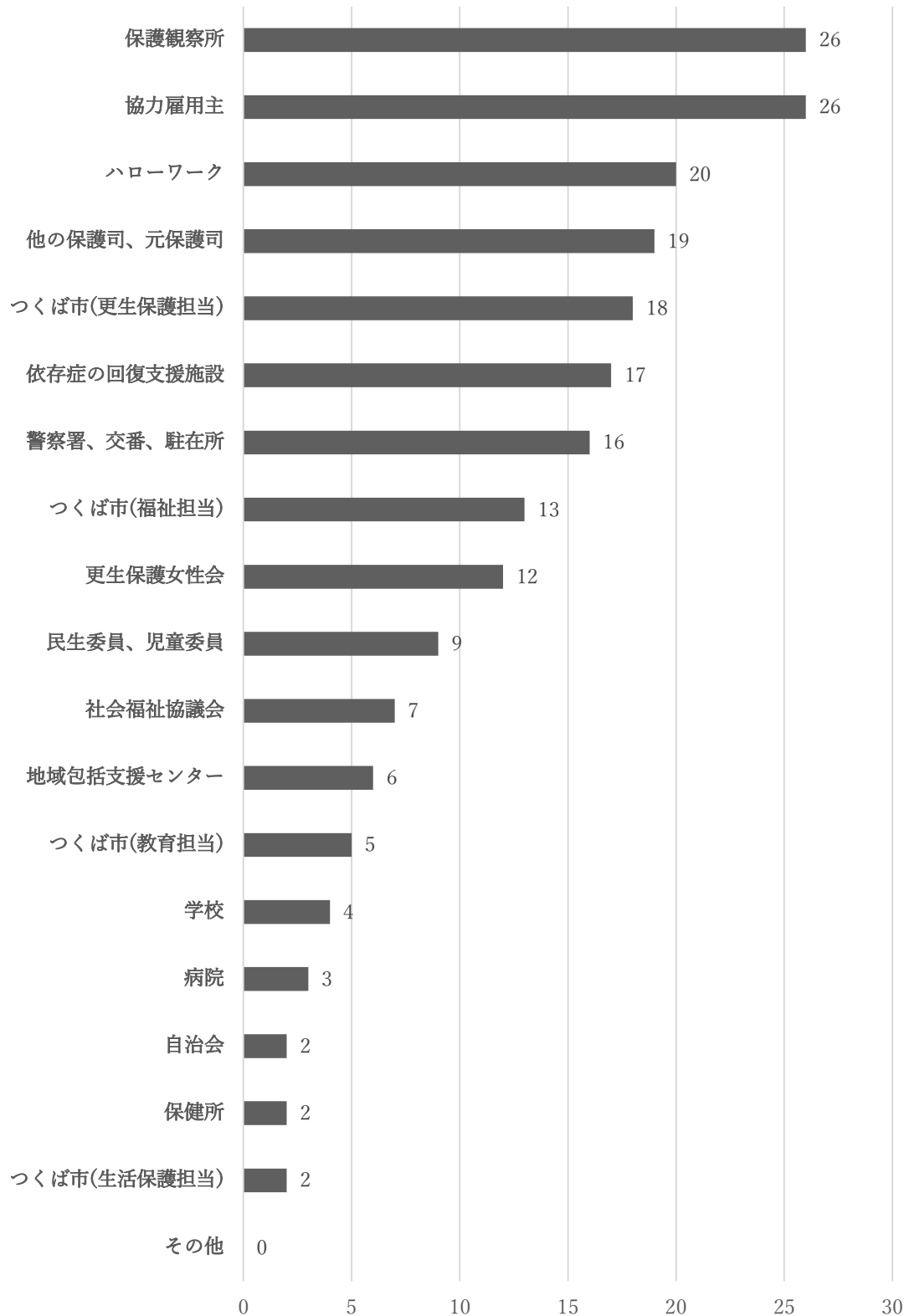
- ・面接場所の確保
- ・約束を守らない（面接日時）ことを繰り返す対象者に対する指導、支援
- ・まだ困難を感じることはありません。
- ・世の中の常識が全くない対象者の対応

Q 5 保護司活動の中で、どのような関係機関と連携強化が必要だと思いますか。

(複数回答可)

回答	件数
保護観察所	26
協力雇用主	26
ハローワーク	20
他の保護司、元保護司	19
つくば市（更生保護担当）	18
依存症の回復支援施設	17
警察署、交番、駐在所	16
つくば市（福祉担当）	13
更生保護女性会	12
民生委員、児童委員	9
社会福祉協議会	7
地域包括支援センター	6
つくば市（教育担当）	5
学校	4
病院	3
自治会	2
保健所	2
つくば市(生活保護担当)	2
その他	0

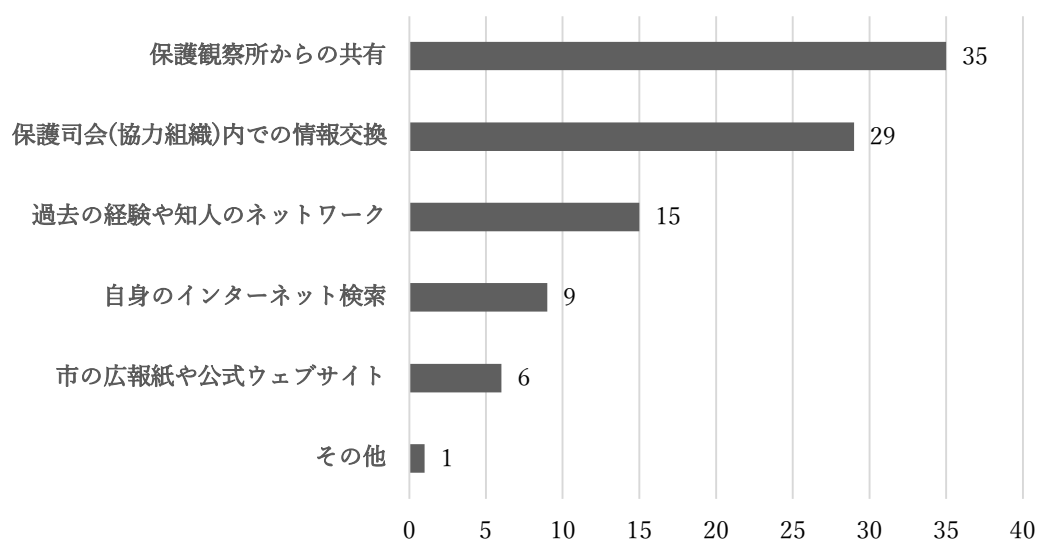
Q 5 保護司活動の中で、どのような関係機関と連携強化が必要だと思いますか。
(複数回答可)



Q 6 保護観察対象者支援に必要な情報は普段どのような方法で入手していますか。

(複数回答可)

回答	件数
保護観察所からの共有	35
保護司会(協力組織)内での情報交換	29
過去の経験や知人のネットワーク	15
自身のインターネット検索	9
市の広報紙や公式ウェブサイト	6
その他	1



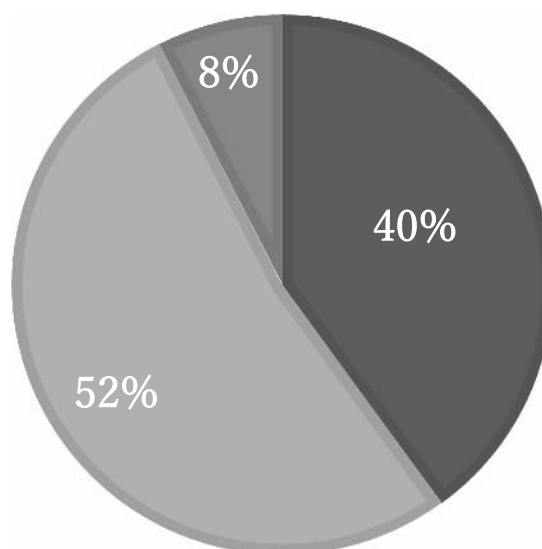
その他の回答 (原文ママ抜粋)

- ・ 他の保護司、元保護司

Q 7 策定予定の「再犯防止推進計画」に、「行政サービス一覧」を掲載すれば、活動に役立つと思いますか。(1つ選択)

回答	件数
1. 非常に役立つ	16
2. ある程度役立つ	21
3. あまり必要性を感じない	3

■ 非常に役立つ ■ ある程度役立つ ■ あまり必要性を感じない



Q 8 再犯防止に関してご意見がありましたら、ご記入をお願いします。
(原文ママ抜粋)

対象者の安定した就職先が絶対に必要です。仕事安定すれば収入も安定すると思います。さらに就職先での良い人間関係づくりの支援が大切だと思います。
再犯を思いとどまれる社会的ケアが本人にとって大切なのではないかと。経済的支援や精神的な支援を行える窓口に本人がつながるような社会体制が出来るとよいですね。
再犯防止推進計画加速化プランに示されている、民間協力者の活動の促進を推進進めていって下さい。
薬物依存は再犯が多いと感じている。行政の支援活動が必要。

行政サービスを活用するための相談窓口：更生保護活動を理解している行政窓口 対象者－担当 保護司－行政
関係機関同士の情報交換と、それぞれを結びつけたり、調整したりするコーディネーターが必要だと思います。しかし、個人情報の壁が立ちはだかるだろうと思いますし、だれがコーディネーターをやるのかという問題があると思います。
対象者は複合的に課題を抱えているので、その解決策はなかなか見つけられない。トリアージ的な相談窓口が必要だと思います。それをどこに設けられるか考えて欲しい。被害者も近くに居住する場合もあるので、その関係、距離的なものも考えて行かなければならない。大変難しい問題であり、デリケートな問題でもあるので、時間も限られている中で意識して話し合いを持てればと思います。
生活保護受給対象者について、制度などについての紹介。利用上の留意事項等についての手引き的なものがあると助かります。就労以前の生活を支えることが再犯の防止につながるのではと感じています。
再犯防止はもちろんですが、初犯防止のための方策も大切だと感じます。
発達障害のある対象者に対する周囲や社会の理解が必要であると感じる。
対象者に対して複数の人、施設より連絡や面接を行う必要があると考える。
・対象者の立ちなおりを受け入れる現場の整備 ・就職先の確保 ・支援、相談活動の充実（普段から寄り添う姿勢）
対象者がその気になるのかどうかの問題であり、非常に難しいと思います。
薬物事犯の対象者の再犯防止はむずかしい。かつて4人、7人の対象者の観察を経験。本人の強い意志と関係者の理解と支援が大事。20数人の薬物対象者の内、10人位は更生し、就労しているが半数は不明又は再入か。
保護司になって経験が少ない。多くの事例等で研修を多くすることで対応の仕方も変わっていくと思う。
生活が安定していれば犯罪には走らない。
満期又は仮出所者のための相談窓口があれば、そこを通じて必要な支援先へつなげられるのではないか。行政（市）を中心に、必要な支援先をつなげたネットワーク組織とそれをコーディネートする担当部署が必要だと思う。